

平成 24 年度教職大学院派遣研修研究報告書

派遣者番号	24K19	氏名	坪池 学
研究主題 —副主題—	協働性を高める一考察 —ファシリテーション機能の活用を通して—		
所属校	渋谷区立臨川小学校	派遣先	早稲田大学教職大学院

項目	内容
I 研究の目的	<p>学校の教育力は教師の力量によって決まる。そして、学校が組織である以上、その教育力は教師個々人の力量だけではなく教師集団の力量に大きく左右される。だが、東京都教育委員会のOJTガイドライン改訂版(2010)には、「一人一人の教員の成長が、学校全体の教育力の向上や、学校が抱える課題解決に十分につながっていない」との課題が指摘されている。喫緊の教育課題である若手職員の育成の背景には、彼らを指導する中堅職員が指導にためらいや不安感を抱えていること、また、経験年数や在籍年数の違いから、互いに同じ立場で教育活動に臨む、学び合う雰囲気が停滞していたりすることなどの要因も指摘されている(実習校管理職からのヒアリングより)。これらのことは、職場内に感じられる、相互に成長し学び合う教師間の連帯感ともいべき協働性が大きく関与していると思われる。</p> <p>そこで、本研究では、実習校における協働性の実態を明らかにした上で、今日、民間企業等で急速に広まりつつあるファシリテーション(以下FA)機能(=集団による知的相互作用を促進する働き)(堀公俊、2004「ファシリテーション入門」日本経済新聞出版社)を活用し、教師の協働意識の変容を図ることを目的とした。また、活用する場は新規増設するのではなく、学年会や研究協議会といった実習校で現在行われている校務運営に関する会議や話し合いに焦点を当て、教師集団の協働性を促進することを課題とした。</p>
II 研究の方法	<p>1 基礎研究(先行研究の分析・文献による理論研究)</p> <p>FA機能についての理解とファシリテーター(以下Fa)としての技能の習得に向けて、先行研究を分析する。また、FAJ(日本ファシリテーター協会)主催のファシリテーター養成講座における研修を受講する。</p> <div data-bbox="406 1182 1428 1478" data-label="Diagram"> </div> <p>2 調査研究(実習校での実習・校内研究への参加による実態調査、並びに質問紙法やヒアリングによる実態調査研究)</p> <p>実習校における協働性構築に向けた課題を見出すため、ヒアリングや質問紙法を実施する。また、FA機能を活用した校内研究を実施している都内公立小学校の研究協議会に参加し、教師にヒアリングを行う。</p> <div data-bbox="406 1680 1428 1892" data-label="Diagram"> </div> <p>3 実践研究(所属校でのアクションリサーチ)</p> <p>協働性構築に向けた具体的な提案が可能な所属校において、ブロック会や校内研究会といった校務運営に関する会議や話し合いの運営に関わる。教師の協働性に対する意識が提案によってどのように変容したか、検証する。</p>

<p>Ⅲ 研究の結果</p>	<p>協働性構築に向け三つのアプローチを提案・実践する。</p> <p>1 話し合いを進める上での場の設定（「四つの掟」と「Yes、And」） 事前の約束事として「本音で語る」「否定しない」「経験・体験から学ぶ」「守秘義務」の「四つの掟」を設定した。また、学び合う際の心構えとして、向き合う相手のすべてをまるごと受容し、良かったところに共感する「Yes」、批判ではなく、更に良くするために付け足していく姿勢を「And」として設定した。これにより、様々な立場や経験を抱える教師集団が、互いの見られ方や心理的距離を意識することなく本音で向き合うことができるようになった。</p> <p>2 ホワイトボードミーティング（以下WBM）の導入 以下三つの工夫をしてWBMを学年会やブロック会での話し合いの際に導入した。 (1) 場のデザイン：議案の責任者と、会議における5項目(目的・目標・進め方・メンバー・ルール)について事前に打ち合わせを行い、デザインシートとしてまとめ、参加メンバーに事前配布した。 (2) 場のレイアウト：メンバーがホワイトボードを囲むような形を基本とした。机を置かずFaを取り入れた。 (3) ファシリテーショングラフィック：参加者の偏った理解を防ぎ議論に集中させるため、発言者の発言やつぶやきを可視化(見える化)させた。 これらにより、本当に話し合いたい内容の焦点化や目指すゴールの共有化が図れた。また、ぶれない議論展開とメンバーの積極的な発言に繋がった。</p> <p>3 FA機能を取り入れた3段階ワークショップ型研究協議会の導入 (1) 協議会を「ペアYes、And」「少人数Yes、And」「全体共有・協議」という3段階にして、段階を踏んで安心して自分の言葉で語る時間と学び合える環境を保障した。 (2) 場のレイアウト：3段階全てで机を使用せず、個人での記録を排した。発言者と聞き手との空間的距離をできるだけなくすことで、互いの顔を見ての意見交流が見られた。 これにより、「今年度初めて発言できた」、「否定されず安心できた」などの参加者の振り返りが見られた。参加メンバーの、話し合いへの参加意識の高まりと、協議会が温かく親和的な雰囲気となっていたことが伺える。</p>																																			
<p>Ⅳ 考察</p>	<p>FAが協働性の促進にどの程度効果があったのか、実習校の職員に調査した(表Ⅱ)。当事者意識の喚起、協働意識の促進の2観点については、効果なしと回答した教師が一人もいない。また合意形成、コミュニケーション促進の観点では、効果に否定的な回答が極めて少数である。職場全体がFAの効果を実感していることが読み取れる。「ファシリテーターが最後までぶれずに引っ張ってくれた」という自由記述にもあるとおり、ファシリテーターを導入して参加者の、①思いや考えの引き出しに専念したこと、②合意形成に徹したこと、③発言の機会を保障したことも、参加者の肯定的な実感として残ったものと思われる。一方、協働意識の促進には約5割がその効果を感じられなかったと回答している。「まだ2回(の協議会)しかやっておらず戸惑いの方が大きかった」と、制度・環境面への戸惑いが挙げられる。FA会議の積み重ねにより改善できるものと思われる。また「会議の質を高める効果はあるが、協働性を構築するにはそれだけでは難しい」、「ファシリテーションは(対人関係能力に対する)カウンセリング的な効果はあるが根本的課題の解消には至らない」として、協働性構築の要因を社会性や人柄といった人間性に見いだす記述もある。いずれも今回の取り組みがOJTの中の一取り組みに過ぎず、協働性の構築にはOff-JTでの在り方を含め様々なアプローチがあることを提言していると考ええる。</p> <p>＜表Ⅱ ファシリテーション機能の効果について＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>観 点</th> <th>評 価</th> <th>とても効果的</th> <th>効果的</th> <th>どちらでもない</th> <th>あまり効果なし</th> <th>効果なし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当事者意識喚起</td> <td></td> <td>7.6%</td> <td>84.6%</td> <td>7.6%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>合意形成</td> <td></td> <td>30.7%</td> <td>46.1%</td> <td>15.3%</td> <td>7.6%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション促進</td> <td></td> <td>30.7%</td> <td>38.4%</td> <td>23.0%</td> <td>7.6%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>協働意識促進</td> <td></td> <td>15.3%</td> <td>38.4%</td> <td>46.1%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	観 点	評 価	とても効果的	効果的	どちらでもない	あまり効果なし	効果なし	当事者意識喚起		7.6%	84.6%	7.6%	0%	0%	合意形成		30.7%	46.1%	15.3%	7.6%	0%	コミュニケーション促進		30.7%	38.4%	23.0%	7.6%	0%	協働意識促進		15.3%	38.4%	46.1%	0%	0%
観 点	評 価	とても効果的	効果的	どちらでもない	あまり効果なし	効果なし																														
当事者意識喚起		7.6%	84.6%	7.6%	0%	0%																														
合意形成		30.7%	46.1%	15.3%	7.6%	0%																														
コミュニケーション促進		30.7%	38.4%	23.0%	7.6%	0%																														
協働意識促進		15.3%	38.4%	46.1%	0%	0%																														